

2018年10月23日

宇宙航空研究開発機構(JAXA)

1. 概要

- 10月11日(木)17:40(日本時間)に、ニック・ヘイグ宇宙飛行士(米国)、アレクセイ・オブチニン宇宙飛行士(ロシア)を載せたソユーズ宇宙船(56S)は、バイコヌール宇宙基地(カザフスタン共和国)から打上げられた。
- 打上げ約2分後、ソユーズロケットの1段(ブースター)に問題が発生。安全を確保すべく、宇宙飛行士が搭乗しているソユーズ宇宙船がロケットから切り離され、帰還カプセルのみが地上に緊急帰還。
- 両飛行士は、打上げ約1時間後にロシアレスキューチームに救助された。
両宇宙飛行士の健康状態は良好。

2. 原因・調査状況

- 現時点では、原因は不明。ソユーズロケットの打上げ実施者であるロシア(ロスコスモス)において事故調査委員会が設置され、原因究明が開始された。
- JAXAは、関係各極とともにISS参加当事者として、ロシアの検討結果を確認する。

3. 影響

(1) ISS計画への影響

3人体制が続くため、「こうのとりのり」7号機(HTV7)で輸送したISSバッテリー交換(EVA)等、ISS運用への影響が考えられる。また後続のソユーズ宇宙船(12/20予定)の打上げ時期遅れの可能性が考えられる。

(2) JAXAへの影響

以下の影響がある可能性が考えられる。

- JAXA搭載品(タンパク質結晶生成実験装置及び実験サンプル)を喪失
現在、再実験に向けて調整を開始中
- HTV7のISSからの離脱と、HTV搭載小型回収カプセルミッション遅れ
- 「きぼう」での実験スケジュールの変更(クルー3人体制が伸びた場合)
- 野口・星出宇宙飛行士の打上げ時期の変更



打上げ場所と着陸場所の位置関係

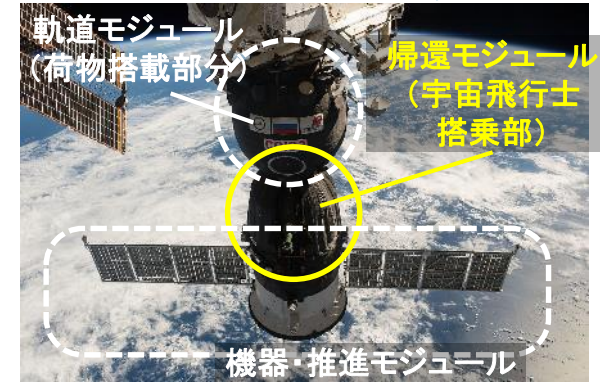


家族と再会した両クルーの様子

(参考)

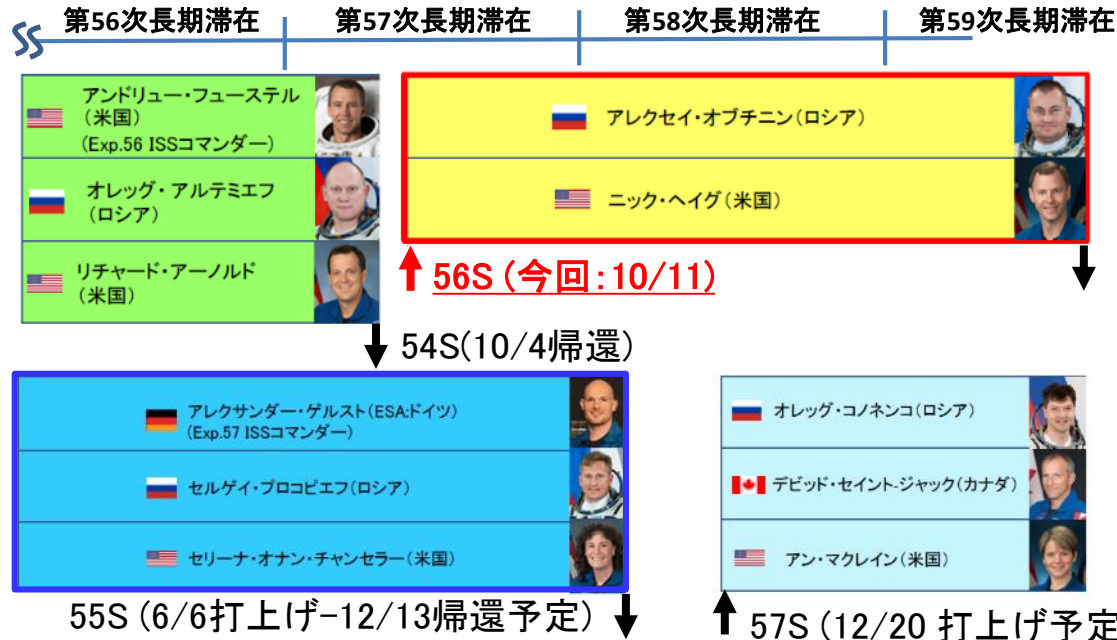
■ ソユーズ宇宙船／ソユーズロケットの概要

- ロシアの有人宇宙船(現在、ISSへの唯一の有人飛行手段)。
- 今回の打上げに使用したソユーズロケットはFG型(打上げ失敗は今回が初)。
- 今回のソユーズ宇宙船(56S)は、MS型(2016年7月～)の10号機(MS-10)。
- ソユーズ打上途中での緊急帰還は1975年に一度発生(2名生還)。
ISS計画開始以降、ソユーズ打上途中での緊急帰還は発生していない。
- 日本人宇宙飛行士のソユーズ打上げは、2009年の野口飛行士搭乗以降、合計7名の搭乗実績がある。



ソユーズ宇宙船(Soyuz MS)

■ 56Sクルー滞在前後のISS滞在クルーのISS滞在計画



ソユーズロケット (Soyuz FG)

■ JAXA搭載品:タンパク質結晶生成実験装置 (25x30x10cm)

